



十和田市立中央病院

病院ニュース さわらび

平成 28 年 2 月 25 日号



「十和田地域の災害救急医療を考える研修会」が開催されました。

医事課 課長補佐 高田 勝幸

2月17日(水)当院別館2階講堂に於いて、八戸市立市民病院 今 明秀 副院長を講師に迎え、消防本部との合同による「災害救急医療を考える会」と題した講演会を開催しました。

当日は、約90名の参加のもと、今先生の東日本大震災時の実体験から、災害時の救急医療体制の整備・運営や近隣市町村への支援など、医師・看護師・事務職の役割分担、想定される課題等について話され、参加者一同、それぞれの立場で有事への備えと訓練の必要性を痛感させられました。



研修会終了後の懇親会では、消防・病院合わせて33名の参加のもと、講師を囲み、時間経過とともにあちこちに車座になる光景が見られるなど、有意義な情報交換が持たれました。



「PSG (睡眠時無呼吸症候群検査)」を始めました。

3階西病棟 看護師長 坪 利佐

睡眠時無呼吸症候群(SAS)とは夜間睡眠中に無呼吸を繰り返し、その結果、日中傾眠などの種々の症状を呈する疾患の総称です。

近年、SASと高血圧との関係が言われていて、通常、夜間は副交感神経が働き血圧を下げますが、SASの場合、睡眠中にたびたび息が止まってしまうので、呼吸を再開させるために交感神経が働いて血圧が上がります。つまり眠っていても体が、休めていない状態となり、それが高血圧を悪化させるといわれています。この夜間高血圧の状態により高血圧の治療をしても血圧が下がりにくくなり、脳卒中、心筋梗塞のリスクもかなり高くなるといわれています。

当院では1泊2日で睡眠時無呼吸症候群の検査(PSG)を行っています。大体の流れとしては、外来受診していただき検査の予定を立てます。検査当日に個室へ入院していただき、寝る前に腰と胸と頭にベルトを装着していただきます。寝ている間にベルトについているセンサーで脳波、眼球運動、筋電図などの睡眠状態、気流センサー、体位センサー、酸素飽和度などの呼吸状態のデータをとります。次の日には退院となり、後日検査結果を聞きに外来にきていただきます。

治療を開始することで脳卒中、虚血性心疾患の発症や死亡のリスクが低下するといわれています。夜間いびきをかき方、血圧が高い方、寝ても、朝起きると疲れがとれない方、昼間眠いという方、もしかしたら睡眠時無呼吸症候群かも知れません。

気になる方はかかりつけ医へ相談し、是非検査を受けることをおすすめします。



こんにちは、4階西病棟です。昨年10月の病棟編成により、脳神経外科の単科の病棟から呼吸器内科との混合病棟になりました。

医師5名、看護師31名、看護助手5名の大所帯です。緊急入院が多く、ベッド移動やセルフケアが不足している患者様も多いため、いつも看護師は走り回っています。そんな忙しさの中でも、病棟にあるフィッシュのコーナーは毎月忘れることなく作り変えられています。季節のアレンジは各月の担当者のセンスの見せどころ。

回診の帰りに、アレンジの配置換えをして下さる医師もいます。忙しい病棟だからこそフィッシュのコーナーは、患者様やご家族の方だけではなく医療スタッフの癒しにもなっているでしょう。癒されたら“笑顔”で“元気”に働きます。元気が患者様に伝わるよう、明るい病棟を目指します。



撮影：善積 威



おひなさま。

2月下旬。本館1階エントランスホールに、『おひなさま』が飾られました。

この『おひなさま』は、別館4階の横山裕子看護師長から寄附されたもので、毎年看護局のみなさんが飾り付けをさせていただきます。年に1回の行事ということもあり、どの人形が何をもち、何段目に置くのか...、写真とにらめっこをしながら四苦八苦すること30分。素晴らしい『おひなさま』が完成しました。通りがかった方々からは、「きれいだねえ」「おつかれさま」と声をかけいただきました。当院へ足を運ばれた方、入院されている方、皆様に院内でも季節を感じられるよう、心を込めて飾っておりますので、通りがかった際にはぜひご覧ください。



外来担当医表

外来診療担当医表は随時更新しております。下記のURLからのご確認をお願いします。

<http://www.hp-chuou-towada.towada.aomori.jp/03sinryo/03gairaiDoctorList.html>